

【高校英文法】 動名詞

● 動名詞のポイント

- ▼ 1 動名詞の働き
- ▼ 2 動名詞の意味上の主語と3つのバリエーション
- ▼ 3 動名詞の慣用表現

▼ 1 動名詞の働き

〈動詞+-ing の全体像〉

動詞 + ~ing = $\left\{ \begin{array}{l} \text{名詞 (S O C になれる)} \\ \text{形容詞 (C or 名詞を修飾)} \\ \text{副詞 (名詞以外を修飾)} \end{array} \right. =$

動名詞・・・「動詞 + -ing」 = 「動詞を名詞に変えたもの」

→文の **S** (主語)、**O** (目的語)、**C** (補語)、**前置詞の O** になる！

■ 動名詞の配置まとめ ←名詞の働きと同じ！

【Sになる】 ← 主語となるときは**三人称単数**扱い。

- a. **Making** good friends is very important. 「よい友達を**作る**ことは大事だよ。」
- b. **Facing** challengers makes you stronger. 「困難に**直面**することでもっと強くなる。」

【Oになる】

- c. We started **watching** the soccer game an hour ago. 「1時間前にサッカーの試合を**見**始めた。」
- d. I finished **doing** my homework. 「私は**宿題**を**(するのを)**終わりました→し終わりました。」

【Cになる】

- e. My hobby is **playing tennis**. 「私の趣味は**テニス**を**する**ことです。」
- f. His job is **cooking** at the restaurant. 「彼の仕事はレストランで**料理**を**する**ことです。」

【前置詞のOになる】

- g. He went out without **saying** goodbye. 「彼は**さよなら**も**(言うことなしに)**→ **言わず**に出て行った。」
- h. Kenta is good at **playing** soccer. 「ケンタはサッカーを**する**のが得意だ。」

▼ 2 動名詞の意味上の主語と3つのバリエーション

■ 動名詞の意味上の主語

My friends don't like **my** studying hard. 「友達は**僕が**一生懸命勉強するのを嫌がる。」

I'm sure of **Sora ('s)** passing the entrance exam. 「僕は**そらが**入学試験に合格すると確信している。」

意味上の主語（誰が-ing するのか？）を表すときは「**所有格**」か「**目的格**」を**-ing の前に置く！**

※ ただし、**目的格は制限がある（他動詞・前置詞のOのみ）**ので、「**所有格**」で使うとミスはなくなる。

目的格とは目的語にくる形、所有格とは「～の」の形のこと。（例：目的格 me/him/Ken 所有格 my/his/Ken's）

◆ 意味上の主語を示す必要がないとき。

① 文の主語と一致	① My friends don't like studying hard. 「友達は一生懸命勉強するのが好きでない。」
② 一般の人	② Seeing is believing. 「見ることは信じること。（百聞は一見に如かず）」
③ 示さなくても明らか	③ His hobby is keep a journal. 「彼の趣味は日記を書くことだ。」

■ 動名詞の3つのバリエーション

① 否定語とセット ← **not** の位置は-ing の前！

I am ashamed of **not knowing** table manners. 「食事作法を知らないことを恥じ入っています。」

Not saying "sorry" ruins your life. 「『ごめんなさい』を言わないのは人生を台無しにしているよ。」

② 受動態とセット ← **being + p.p.**

I don't like **being treated** like a child. 「僕は子供扱いされるのは好きじゃない。」

Yuki is afraid of **being judged** by anybody. 「ゆうきは他人にジャッジされることを恐れている。」

③ 完了形とセット ← **having + p.p.**

Satoshi insisted on **having paid** money. 「智はお金を払ったと主張した。」

We were proud of **having won** the game. 「私たちはその試合に勝ったことを誇りに思った。」

☆ 動名詞のバリエーションまとめ

意味上の S	所有格 + -ing / 目的格 + -ing
否定形	not -ing
完了形	having p.p.
受動態	being p.p.

▼ 3 動名詞の慣用表現

動名詞の慣用表現①

feel like -ing	～したい	There is no -ing	～できない
It goes without saying that ~	～は言うまでもない	It is no use -ing	～してもムダだ
in -ing	～するときに	cannot help -ing = cannot help but 原形	どうしても～してしまう
on -ing	～するとすぐに	be worth -ing	～する価値がある
of one's own -ing	自分で～した	need -ing	～する必要がある

動名詞の慣用表現②

be used to -ing / be accustomed to -ing	～に慣れている
get used to -ing / get accustomed to -ing	～に慣れる (慣れない状態から慣れた変化を表す)
take to -ing	～にふける / ～が習慣になる
look forward to -ing	～を楽しみに待つ
object to -ing / be opposed to -ing	～するのに反対する

↑ 「動名詞と不定詞の使い分け」の-ing と to のイメージが頭に入っていればかなり覚えるのはラクになるはず！ ing は「途中」というニュアンスから過去、現在、中断、逃避、マイナスイメージ、to は「到達」「方向」のニュアンスから未来、単発、プラスイメージがあるんやったよな。

動名詞の慣用表現③

when it comes to -ing	～することになると
come close to -ing / come near to -ing	もう少しで～するところ
devote oneself to -ing / be devoted to -ing dedicate oneself to -ing / be dedicated to -ing	～するのに専念する
with a view to -ing	～するために
contribute to -ing	～することに貢献する
What do you say to -ing	～するのはどう？
be preferable to -ing	～することより好ましい

↑ 特に太文字のところは頻出なので 0.1 秒で出せるくらいに覚えきろう！ちなみにこの上の「**to**」は to 不定詞の to ではなくて前置詞の to やから to のあとは名詞（動名詞）の形になるんやで。

☆仏心の「中学で習った動名詞の慣用表現」まとめ

be fond of ~ing	「～するのが好きだ」
be good at ~ing	「～するのが上手（得意）だ。」
be afraid of ~ing	「～するのを恐れている。」
look forward to ~ing	「～するのを楽しみにしている。」
Thank you for ~ing	「～してくれてありがとう。」
How about ~ing?	「～するのはどうですか。」

全て覚えていて当然のものなので一つでも知らないものがあったら、今5分以内に覚えてしまおう！あとでやろう、って思ってもなかなかしなくなるから今のうちに覚えきろう！

=====

【発展】

動名詞は-ingの形なので、**進行形の「途中」のニュアンス**が必ず付いてくる。この「途中」ってニュアンスは「躍動感」「リアル感」「イキイキとした感じ」といったイメージが派生してついてくる。逆に**toは「到達」「方向」のイメージ**やから「これから」の話でリアル感を感じられないよね。この知識を当てはめて次の2つの文の意味の違いを考えてみよう！

- a. Making good friends is important. 「よい友達を作ることは大事だ。」
- b. To make good friends is important. 「よい友達を作ることは大事だ。」

どちらも日本語にすると同じ訳になるけど実はニュアンスが変わるんよね。**aは-ingが使われているから具体的なイメージを伴った言葉**に聞こえる。例えば、友達とうまくいっていない子供に対して親が言うセリフはaになる。そこに、友達とケンカしたり、言い合いになったり、うまくいかなかったりした具体的な「リアルな」イメージを持って話しているから。それに対して**bはtoが使われていて「リアルな」感じがないから「一般論」のように聞こえる**。「いい友達を作るっていうのはね、大事なことなんだよ。」とあくまで世間一般の見解としていっている、ぼんやりとしたニュアンスに聞こえる。入試ではもちろんこんな違いを聞く問題なんて出ないけど、ちょっとでもこれまで習った知識を実際の会話に応用して細かなニュアンスを作り出せると、言葉の表現の幅がグンと広がるからおもしろくなるで～